

図書館だより

CONTENTS

私の理想とする図書館	1	ブックハンティングの実施	4
学生essay ～私の図書館活用法～	2	ブックハンティングの感想	5
連載 書評	3	蔵書交換展示会報告 / 寄贈図書案内 / 人事往来	6

私の理想とする図書館



助産学 准教授 高島 葉子

私にとって、図書館という5つの図書館が思い浮かびます。1つ目は子どもの頃から慣れ親しんだ小学校の図書館、2つ目は教員が細々と管理する看護専門学校の図書館、3つ目は素敵な司書のおばさまが登場する『ロレンツォのオイル／命の詩』という映画に出てくる図書館、4つ目はデンマークの住民の日常と共にある図書館、5つ目は情報が溢れる大学の図書館です。それぞれが私の人生には大切なものですが、理想だなと思える図書館は2つです。

恥ずかしながら、私は本を読むのがとても苦手です。3行読んで、戻り、また3行読むというような繰り返しで最後まで行き着くのに時間がかかります。目的の書籍や文献に行きつくのも得意ではありません。私のような人に「図書館って、本当はこんな素敵なおとこだったんだ」と思わせてくれたのが『ロレンツォのオイル／命の詩』に登場する図書館でした。どこが理想なのかをお話する前に、『ロレンツォのオイル／命の詩』(原題:Lorenzo's Oil)のあらすじをご紹介します。この映画は1992年のアメリカ映画で、副腎白質ジストロフィー(Adrenoleukodystrophy: ALD)に悩むひとり息子ロレンツォを助けるため、解決策を必死に求め続ける銀行家のオドーネ夫妻の実話に基づく物語です。ALDは中枢神経系の障害と副腎の機能不全を特徴とする男児に見られる遺伝病で、ロレンツォが発症した1983年当時には、治療法は存在せず、多くの患者は発病してから2年以内に死亡する難病でした。オドーネ夫妻は治療できる医師がいないことを知り、自力で治療法を探し求めて、医学図書館に通い詰めます。そして、食事療法として特定のオイル(エルカ酸とオレイン酸のトリグリセリドを1対4の割合で配合したもの)を見つけ出すのです。医学図書館では、ちょっとしたヒントをたどり、膨大な関係資料を図書館司書に探し出してもらったのです。息子の病状が悪化の一途をたどり、一刻も早く治療法を見出したい父親の壮絶な資料との格闘に、慚然とした表情の中年女性の司書は応え協力していきます。その当時、図書館は“ひたすら読みたい本を自由だけれど孤独に探

し出すところ”と何故か考えていた私にとって「図書館の機能って本当は双方向性のものなんだ。孤独なわけじゃないんだ。」と強く印象づけられました。

2つ目の理想とする図書館は、1998年に教育ツアーで訪れたデンマークのRyという美しい町にある図書館(BIBLIOTEK)です。青く澄んだ高い空と木々の緑、美しく色とりどりの花々、古い建物と調和のとれた色彩豊かな住宅等夏のRyは本当に全てが美しいのです。そんな町中にある図書館は、こじんまりとした庭つき煉瓦風づくりの建物で、高齢者から子どもまで本当に多くの人々で一杯でした。本を手に取り穏やかな表情で本を開いている人、お茶を飲んだり、カウンセリングを受けている人までいました。何より驚いたのは、本を借りていく人がとても多いのです。デンマークでは書籍の価格が高く、本は買うものではなく借りて読むものだという文化があり、借りた本は例えば旅行に持って行き返却期限となったら、デンマークであればこの図書館に返却しても、借りた図書館に戻されるシステムになっていると聞きました。デンマークの公共図書館は、1830年代に教育者グルントヴィの思想をもとにフォルケホイスコーレと呼ばれる独自の生涯学習機関の設立が土台にあると言われています。乳幼児の時から親と共に図書館に慣れ親しみ、学校・大学の図書館を経て、生涯学習として図書館をずっと利用していきます。

デンマークの図書館サービスは世界でもトップレベルと言われており、興味深いものがあります。詳細は吉田右子著『デンマークのにぎやかな公共図書館』(2010)新評論を参考にいただければと思います。

現在では図書館の機能は、ずいぶんと工夫され進化してきています。みなさまも理想の図書館に出会えますように。



請求記号 016.2-Y86
配架場所 2階 棚11

学生essay～私の図書館活用法～

私は平成21年に新潟県立看護大学を卒業後、臨床で7年目の看護師として働きながら、現在は新潟県立看護大学の大学院にも通っています。臨床では通常業務以外にも、新人教育、勉強会、看護研究、専門領域の資格取得、幹部看護師の試験など、様々な役割や自己研鑽の機会があり、このような経験を重ねる度に、より専門的な知識を学びたいと考えるようになったため大学院を受験しました。また、当時は副師長(主任)として働きながら大学院に通っていた方がいらっしゃったので、臨床で働きながら大学院に通うことが出来るという実例を目にしたことも、受験の大きな要因の一つでした。学部生の頃は勉強が嫌いで追試ばかり受けていた私が大学院にいる現実、自分でも笑ってしまいそうなこともあります。

さて、実際に大学院に通ってみて感じたことは、やはり学部や臨床以上に、より高度な知識が学べ、同級生との意見交換の場においても、それぞれが専門分野の高い知識を有しているため、様々な知識に触れることができる環境が整っているということでした。このような環境の中で、私を支えてくれているのが大学や職場にある図書館です。大学院の授業自体は週1日程度ですが、授業では学部の頃とは比較にならないほど高度な課題が出るため、まずは図書館で資料を集めるところから始め、勤務の合間に資料を読み込み、なんとか課題を提出する日々です。学部生の頃は、文献検索以外で立ち入らなかつた図書館ですが、今では、ほぼ毎週、大学か職場の図書館を

利用しています。そして、気に入った本や臨床でも役に立つと思った本は購入し、いつでも参考にできるように手元に置いています。今年度に入ってから、私はこのように図書館を活用しています。

この文章を読むと、「働きながら大学院に通うのは大変そう・・・。」と思われるかもしれませんが、安心して下さい。本当に大変です。しかし、その大変さを上回るほど、管理職の方や専門的な知識を有する同級生と共に学べるのが楽しくて仕方ありません。ですので、今度こそ安心して下さい。充実感があります。

大学院に通い、図書館を利用するようになって、改めて専門分野の知識や情報に触れ、学んだ知識を臨床で活かすことができる喜びというものを実感することが出来たので、学部の卒業生や、臨床で働いている看護師の方々が、一人でも多く大学院に興味を持ち、図書館も利用することで、新しい方々との意見交換や知識の共有にも繋がっていけば嬉しく思います。



大学院生

私はテスト前に勉強をするためや、文献を探すために図書館を利用しています。家では勉強をしようと思っても、ついだらだらしてしまったり、テレビをみてしまったりとなかなか勉強に集中できません。しかし図書館に来ると、周りの人も勉強やレポート作成など一生懸命にやっているので、「私も、頑張らねば」と思うことができます。また、2階の席は、ガラス窓からの景色がとてもいいです。近くのものばかり見ていたら、目が疲れてしまうことがあります。そんな時、ちょっと視点をずらすと自然豊かな景色が広がっています。勉強をして疲れた目や脳がリフレッシュされ、再び勉強に集中することができます。図書館の2階の席は、景色もよく、効率よく勉強ができるので私のお気に入りの場所です。

新潟県立看護大学の図書館には、医療や看護の文献が数多くあります。私は、実習やレポート作成の際わからない言葉や根拠がよくわからないことがあると、なるべく図書館の文献を参考にすることを心掛けています。インターネットは、キーワードを入力するだけで莫大な情報を簡単に得ることができます。しかし、インターネットの情報はあっていること間違っていることが錯綜しています。学校の先生も「インターネットの情報には、間違っていることが多くあるので、そのサイトは信頼できるか、誰が書いているのかなどしっかり確認することが大事」とおっしゃって

ました。私は、どのサイトが信頼できるかもよくわからないし、まちがった情報であったとしても気づけないかもしれません。やはり、少し時間はかかるけれども文献で調べるという方法が確実なのだと思います。図書館には、文献検索データベースがあり、キーワードを入力するといくつかの文献をすぐに探すことができます。これにより、数多くある文献から自分にあった文献を見つけることができるので、私も何度か利用したことがあります。

これから、より専門的な授業になり本格的な実習もあります。授業についていくためにも集中できる図書館で勉強したり、調べものをしたりとこれからもどんどん図書館を活用していきたいです。



2年生

連載 書評

『大槌町 保健師による全戸家庭訪問と被災地復興』

村嶋幸代・鈴木るり子・岡本玲子編著，明石書店，2012

地域看護学 助教 野口 裕子

私は、保健師時代に水害、地震等の自然災害が発生し、災害発生後からの保健師活動を体験しました。その経験は、現在でもしっかりと記憶しています。

今回、紹介するのは『大槌町 保健師による全戸家庭訪問と被災地復興』という書籍です。

この書籍は、2011年3月に発生した東日本大震災の被害を受けた岩手県大槌町で、全国から集まった保健師たちによる全戸家庭訪問が行われ、その家庭訪問から得られた調査結果の紹介ならびに復興への提言、そして今後の保健師活動に向けた提言が紹介されています。

「はじめに」にこう書かれています。「本書は、この震災によって甚大な被害を受けた岩手県大槌町で、震災後1か月半の時点で、全国から集まった保健師たちによる全戸家庭訪問の記録です。」そして、全戸家庭訪問に至った経緯としては、以下のように書かれています。「この大槌町では、東日本大震災で、人口の1割以上を失ってしまいました。また、町役場にも被害が及び町長はじめ役場職員が多数亡くなったばかりか、基本的な帳簿類が失われてしまい、行政機能も麻痺してしまいました。この町で28年間勤めていた元保健師の鈴木るり子さんは、全戸訪問をしながら、生存者の健康問題を把握したいと考えました。大槌町からも全面的な協力が得られることになり、実施につながりました。訪問調査の呼びかけは、一般社団法人全国保健師教育機関協議会、NPO法人公衆衛生看護研究所、全国保健師活動研究会を通して行われ、その結果全国から137人の保健師たちが参加しました。」

家庭訪問は、保健師が行う特徴的な活動の一つです。家族を単位として生活の場で健康問題を解決するために行う援助活動です。突然自分の身に降りかかった震災の影響をかりうじて切り抜けた住民の皆様にとっては、恐怖感を体験します。また、津波が住み慣れた生活の場を奪いました。住み慣れた場所が突然なくなってしまうことは、とても大きな喪失感を生じさせます。そのような状況にある住民のお宅に保健師は1軒1軒まわり、お顔を見ながら体調の話をしたり、血圧測定をしながら医療が必要な方へは医療につなげたりするという支援を行います。次に、訪問して得られ

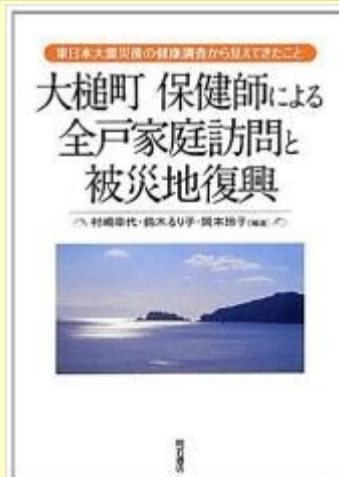
たことをまとめて、地形と居住地の分布・医療機関や保健機関の位置ならびに交通アクセスの状況を地図に起こします。さらに訪問対象者の現病歴や既往歴を数値化することで、地域全体の健康問題を見出していきます。このプロセスは、書籍の第6章のまとめにこのように記述されています。

「今回の全戸家庭訪問は、単に全数を訪問しただけではない。単に全数の中から要支援家庭を早期に発見するためだけの訪問ではない。家庭訪問とは、現場で生活を直接見る、その中で相手の立場にたって直接話を聞くことから今後に必要な支援を直接見る、その中で相手の立場にたって直接話を聞くことから今後に必要な支援を考え、地域全体の問題にしておくことである。」

本書を通して、災害発生後から住民との相互作用の中で行われた保健師活動の実際だけではなく、保健師が行う家庭訪問を通じて行われる個別支援を地域全体の健康問題につなげて、健康問題解決の方法をいろいろな機関と組織化を図りながら展開させていく過程を知ることができます。

是非一度手にとって読んでいただくと嬉しいです。

また、この書籍がおかれている本学図書館災害看護・地震関係資料コーナーには、新潟県で発生した2004年中越大震災、2007年中越沖地震に関する資料をはじめとする数多くの災害看護に関する書籍があります。新潟県内で発生した自然災害の概要を振り返るだけでなく、災害発生後から多くの看護職が支援ならびに復興にむけて尽力していたことを知る機会になります。1人でも多くの皆様には是非足を運んでいただき、書籍にふれて頂ければ幸いです。



請求記号 N880-Mu58

配架場所 1階

災害看護・地震コーナー

ブックハンティングの実施

学生ブックハンティングを試みて

図書委員会 選書担当 准教授 藤田 尚 ・ 助教 高塚 麻由

学生ブックハンティングとは、学生が書店に出向き、本を手にとり中身を見ながら図書館に入れたい本を自分で選ぶという選書のひとつの方法です。通常であれば「リクエスト図書」として、学生は所定の用紙に記載し図書館に申し込みます。

年間通してリクエストはできますが、さらに学生からのリクエスト募集期間を特別に設けた“学生リクエスト図書”を募集してきました。しか

し、なかなか…。今年度のリクエストは思ったようには集まらず、学生の興味関心をどのように引き出すか、選書担当者としては新たな課題にぶつかりました。そこで他大学の図書館の取り組みについて情報収集し、これは面白い！と思ったのがこの「学生ブックハンティング」でした。

読んでみたい本、欲しい本、皆さんはどうやって見つけて手に入れていますか？私もそうですが、インターネットでキーワードを入れて検索し、その中から時には誰かの書いた書評を参考にしながら購入する、多くの方がこの段取りで新しい本と出会っているのではないのでしょうか。学生の頃は書店に出向き、ばらばらと歩いては、表紙を見て気になった

本を手にとり、ばらばらとめくって中身にさっと目を通し、読んでみたい！関心も高まり購入、だったのが今ではすっかり椅子に座って机上で

パソコンをポチッとクリックして本を手元に呼び寄せれば済みです。この企画が決定する前には、私自身

もあらためて書店に出向いてみたのですが、キーワード検索では出会わない本たちが沢山いることに気づきました。となれば、学生にも是非、図書館の本をこのように選んでもらいたいと思いました。

現実には、リクエスト図書の少なさと同じく、掲示板でのお誘いで応募してくる学生はほとんどいなかったため、廊下で出会う学生個々に声を掛け誘うことになりましたが、しかし当日、参加者は6名。定員に満ちてほっとひと安心。1人あたり1万円という予算の中で、図書館にあったらいいと思う本を無事選んでくることができました。学生のみなさんが手にとる本、私ひとりなら出会うことのない本ばかりで楽しい時間となりました。



ブックハンティングの感想

私は今年度から始めて開催された、書店で大学図書館の本を選ぶことができる学生ブックハンティングに参加しました。実際に書店に訪れ手に取って本を選ぶことで、読んでみたいと思う本がたくさんあることに気付かされました。そのため、私たちが選んできた本は限られています、皆さんにもどんな本があるのか図書館に行き手に取ってもらえると嬉しいです。

4年 Hさん

私は小説を読むのが好きなので、大学の図書館にもっとたくさん的小説があればいいな、と思い参加しました。図書館の本を自分で選び、買うことに責任を感じましたが、書店で直接本を見てみると、普通に買い物をしている気分で楽しめました。戸田書店さんは新刊が充実していて、初めて見る本も気に入り目移りしました。読書の秋にたくさんの本を見て購入できたことは嬉しく、参加して良かったと思います。

2年 Sさん

今回学生ブックハンティングに参加させて貰い大学図書館の本を選ばせて頂きました。看護関連の専門誌は殆ど図書館に既にあっただので、息抜きとして面白そうな本を主に選んでみました。私のおすすめの本や興味のある本を図書館で様々な方と共有できるというのはとても魅力的だと感じました。また、実際に書店で本を手にとって選べたのもとても良かったです。また機会があったら参加したいです。貴重な機会をありがとうございました。

4年 Yさん

先日は、学生ブックハンティングに参加させていただきありがとうございました。大学図書館の本として、自分が関心のある本を選ぶことができ、自分自身が看護やその他のことについて知る機会になるとともに、ほかの人にも知ってもらえる機会になってくれると嬉しいです。

匿名希望

普段あまり読書をする習慣の無い私でしたが、今回のブックハンティングを通して、図書をとても身近に感じる事ができました。図書館の本を選ぶことで、最初は少し慎重になっていましたが、学生目線から純粋に興味のある本を選ぶことで自分も楽しく、参加者の皆さんと「これいいね～」と刺激し合いながら有意義な時間を過ごすことができました。

4年 Mさん

今回は戸田書店でブックハンティングをしてきました。図書室に置いてほしい本を選ぶ目的で参加しましたが、数ある本を見ていくうちに、「こんな本と一緒に勉強がしたい!」という意欲がどんどん湧いてくるのを感じました。勉強したいけどできない癖がついている私にとって、ブックハンティングは良い刺激となりました。

4年 Aさん

平成27年度 蔵書交換展示会

今年度も上越教育大学との蔵書交換展示会を実施しました♪



第1回目は6月15日～7月24日
第2回目は12月1日～1月9日



上教大の展示風景

当館の展示風景



来年度も実施の予定です。本学図書館にはない本 50冊が展示されます!
是非ご利用ください!!

寄贈図書・紀要案内 平成27年7月～平成27年11月受入

	寄贈者(敬称略) ※受入順に記載	書名	出版	請求記号
学 外	山本 達男	病原体と感染症 第1版第2刷 各論編 Battle & medical application 講義シリーズ	2015	493.8-Y31-2
	小笠 裕二	新選小川未明秀作随想70ふるさとの記憶	2015	910.2-024
	若林 広行	わかりやすい疾患と処方薬の解説 2015病態・薬物治療編	2015	492.3-W25-15
	金城 直人	誰でも簡単アイデアづくり 生物進化モデル法	2015	507.1-Ki44
	小島 隆夫	禅と茶	2015	791-Ko39
紀 要	新潟国際情報大学 国際学部	新潟国際情報大学国際学部紀要	2015	
	京都看護大学 看護学部	京都看護	2015	

このほか、本学大学院を平成26年度に修了した7名より修士論文を寄贈していただきました。

寄贈いただきありがとうございます。

人事往来 ～図書館職員ごあいさつ～

新採用図書館職員

嘱託員 笹野 久雄

皆さん、こんにちは。10月からお世話になってます。
図書館の静謐さの中で働く事が出来、嬉しい限りです。
まだまだ不慣れですが、一日も早く皆さんのお役に立て
よう頑張りますので、宜しくお願ひいたします。

退職図書館職員

嘱託員 田平 絵里

9月末日をもちまして退職させていただきました。
在職中は日々充実した貴重な経験をさせて頂きまし
た。大変お世話になりありがとうございました。
今後も看護大学の皆様のご多幸と一層のご活躍をお
祈り申し上げます。

NCNL図書館だより 第38号(平成27年12月発行)

編集：新潟県立看護大学 図書委員会
〒943-0147 上越市新南町240番地
URL：http://lib.niigata-cn.ac.jp/

発行：新潟県立看護大学図書館
TEL：025-526-1169
E-mail：tosyo@niigata-cn.ac.jp